徳地鶏卵 香港に輸出

県産で初 富裕層ターゲット

山口市の養鶏業徳地ファームは13日、生産する鶏卵の香港輸出を始めた。安全性の高い食材を求める現地の富裕層をターゲットに、新たな販路の定着を図る。県によると、県産の鶏卵が本格的に輸出されるのは初めて。

輸出するのは、約30万羽を飼育する同市徳地引谷の農場で生産した卵。福岡市の博多港から海上輸送し、現地の商社を通じてスーパーなどで販売する。年20トンの出荷を見込む。

徳地ファームによると、日本産の卵は安全性への評価から香港で人気が高い。輸出量が伸びており、今回も現地の業者から取引の打診があった。日本と異なり、卵は加熱調理が前提という。店頭価格は10個入り300円前後になるとみている。

初回出荷分2トンの選別と包装作業が柳井市柳井の内外飼料柳井支店であり、箱詰めをして出荷した。徳地ファームの山縣幸成代表取締役(60)は「まずは現地で認められ、県内の市場の活性化にもつなげたい」と意気込んでいた。（井上龍太郎）

香港に輸出する鶏卵を箱詰めする内外飼料の従業員

山陽小野田工場爆発 飛散石綿の濃度 許容値を下回る

山陽小野田市の中国アセチレン小野田工場が爆発炎上し、破裂したアセチレンボンベからアスベスト（石綿）が飛散した問題で、県は13日、工場周辺の延べ10カ所で実施した大気中の石綿濃度の調査結果をまとめた。1リットル当たりの石綿繊維は最高7・5本と、大気汚染防止法が許容濃度の上限とする10本を下回った。

7・5本だったのは、事故翌日の6日に調べた工場の敷地北側の境界。東側の境界は0・71本だった。北側の境界を含む工場から半径1・2キロ圏内の8カ所を対象にした11日の調査では、石綿を含む繊維質は0・22～0・79本で、工場から7・4キロ地点の0・79本と同水準だった。

大気汚染防止法は、石綿の生産加工施設の周辺の許容濃度を「10本」と定める。県環境政策課は「健康被害が懸念される水準ではない」と説明。飛散物質の除去作業が終わるまで、調査を続ける。

事件・事故

酒気帯び運転の疑い

周南署は13日午後5時ごろ、周南市福川2丁目、自称無職藤井保容疑者(78)を道交法違反（酒気帯び運転）の疑いで現行犯逮捕した。周南署の調べでは、同市古市1丁目の県道で酒を飲んで軽ライトバンを運転した疑い。対向車線の軽乗用車に衝突する事故を起こして発覚した。